

釜石市桜木町仮設団地自治会（岩手県）

活動地域

忘れもしない平成23年3月11日、東日本大震災の地震・津波の影響で、釜石市の沿岸部を始め市街地も壊滅的な被害を受けました。震災前まで、私は釜石市嬉石町という町に住んでいましたが、この地域は目の前が海でしたので、住宅が跡形もなく流されてしまいました。

本日、紹介するのは、岩手県の沿岸南部に位置する釜石市の桜木町仮設団地自治会についてです。釜石市桜木町仮設団地は、市街地から約3キロほど内陸に位置した場所で、近くにはJR小佐野駅があります。桜木町仮設団地には平成23年6月ごろから入居が始まり、市内の被災地15地区から入居した113世帯約280人が生活しております。お互いの顔も知らず、入居した仮設団地の生活は、誰もが不安だったと思います。そうした中、釜石市からの要請と地域住民の声をもとに検討し、みんなの知恵と協力で住みよい団地を目指そうということで、平成23年10月31日に釜石市桜木町仮設団地自治会を発足しました。



団体の概要

釜石市桜木町仮設団地の自治会は、会長1名、副会長2名、書記1名が役員となっているほか7班体制で構成されています。また、防犯部、交通安全部、環境美化部、広報の専門部もでき、各班の班長さん、自治会役員が中心となって、自治会の運営を行っています。仮設住宅に入居した当初は閉鎖的だった方々も、ゴルフで体を動かし、ニットカフェではお茶を飲みながら手芸をするなど、それぞれの活動を通じてお互いの顔が見える関係を作ることができました。私たちの自治会活動の特徴は、見ず知らずの人が集まった仮設団地で自主的に自治会をつくり、それぞれの専門部や各班の班長さんが住民の先頭に立って活動していることです。なかでも専門部の活動は、仮設住民の声をもとに自主的にを行い、専門部として立ち上げ、継続的に活動していますので、紹介します。

釜石市桜木町仮設団地自治会 役員

平成23年10月31日発足

～役員～

- 会長 1名
- 副会長 2名
- 書記 1名

～班編制～

- 7班編制(各班、班長、副班長を選出)

見ず知らずの人が集まった仮設団地

↓
各班長、班員が各世帯に会報配付、挨拶、声かけ、見回り活動

↓
住民同士が声をかけ合い、協力し合える関係を構築

↓
専門部の積極的な活動実施に加え、住民が率先して活動に参加

↓
同じ趣味を持つ住民がお茶つこの会などで交流、
同好会結成
【グランドゴルフ部・ニットカフェ部・将棋、マーじゃん部】

活動の概要



初めに防犯部の活動を紹介します。防犯部は、仮設団地内の防犯・防火パトロール、児童の下校時間帯に合わせたパトロール、イベントを行う際の広範交通整理の応援をしています。また、風の強い日は近隣で飛ばされそうなものがないかを確認したり、一人暮らしの方に声を掛けたりと、できる範囲での活動をしています。仮設団地の防犯・防火パトロールは、月に2回、午後7時30分から約30分程度、仮設団地内を一周するようにして行っています。活動に必要な物品については、釜石警察署及び釜石地区防犯協会連合会の担当者を通じて、財団法人社会安全研究財団に支援を依頼しました。その後、東日本大震災特別防犯活動助成の支援も受け、防犯パトロール用ジャケット、腕章、帽子、のぼり旗、反射マグネット等を頂き活動しています。



次に交通安全部の活動です。交通安全部は毎週木曜日に見守り活動を行っています。もともとの地域では、交通指導部の方々や釜石市立小佐野小学校PTAの方々が、継続して見守り活動をしてきたようですが、私たちが地域への感謝の気持ちを込めて見守り活動に参加しました。その活動がきっかけで、桜木町に隣接する小川町内会の方々も参加されるようになり、見守り体制が確立されました。

活動に参加する方々と協議した結果、桜木町仮設団地自治会は毎週木曜日に見守り活動を実施することになり、現在も継続して活動を行っています。仮設が建設された地域は、踏切を渡って国道に出るようになっています。朝夕のラッシュ時間帯は渋滞が発生します。また、仮設団地から学区内の学校にスクールバスで通う児童もいることから、渋滞の発生する時間帯にスクールバスが停車し、仮設団地の入口は大変混み合います。仮設団地入口に横断歩道があり、横断歩道を渡る歩行者や、仮設団地や住宅街から出る車両に加えて、雨の日は水溜まりを避けて通行する車両があるため、大変注意が必要であり、朝の交通指導、児童の見守り活動は必要不可欠となっています。

続いて環境美化部の活動です。環境美化部はごみ集積場所の清掃活動に加えて、月2回の資源回収とエコ推進、花壇の整備活動を行っています。環境美化部は、部員が仮設団地の環境を整備するだけでなく、引きこもりを防止しようと、部員が率先して住民と一緒に

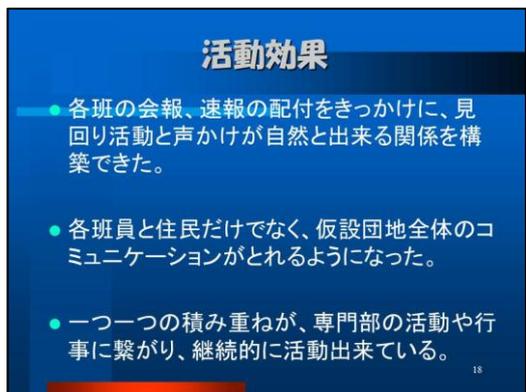
になって花を植えるなど、環境整備を行い、住民とのふれあいを大切に活動を推進しています。

続いて広報部の活動です。広報部は月1回会報を発行し、その月に行った行事や今後の予定などを掲載し、各家庭に配布しています。また速報がある場合には、各家庭に配布したり、自治会運営の拠点となる談話室に掲示するなど、仮設団地の住民の方々に目を通していただけるよう配慮しています。住民からは会報が楽しみという声が上がっています。なお、私たちの仮設団地自治会ではホームページを運営していますので、ぜひ見ていただきたいと思います。



活動の効果と今後の課題

次に各行事を通じた活動の効果についてです。冒頭でもお話しさせていただきましたが、私たち仮設団地自治会はもともとあった地域の自治会活動とは違い、震災により見ず知らずの方々が入居し、お互いを知らない状態から自治会を立ち上げ、いろいろな活動を通して気軽に声を掛けあいさつができる状態になりました。今では談話室を拠点として活動についての意見を出し合い、実施できるようになりました。こうして行事をしたり、集会でいろいろな意見交換ができたりするようになったのは、住民全員が協力し合い、知恵を出し合い、住みよい団地にしたいという思いがあるからだと思っています。こうした活動は、私たち自治会の役員だけではとうてい無理なことであり、みんなが一緒になってやること



でさまざまな活動ができると思います。継続的に取り組んでいる自治会の活動は、小さな活動の積み重ねで現在に至っていますので、仮設団地のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。お互いの顔が分からないという状態から、継続的に活動を行い活発な意見を出し合えるまでの関係を続けたのは、大きな成果と言えると思います。

今後の課題

平成26年度後期から復興住宅への転居も進み、自治会活動も大きく変化してくるだろうと考えている。

自治会を一から立ち上げ、みんなで協力して来たので、離れることを考えると寂しい気持ちがある。

活動は続けていきたいと思っているが、今後は若い方々の協力も不可欠。

いかに老若が力を合わせ自治会を支えていけるかが課題。

24

多くの支援活動への感謝

多くのボランティアの方々が桜木町仮設を訪れて元気を与えてくださいました。

支援物資にも感謝です。本当にありがとうございました。

コミュニティの場所と和みの環境を多く作っていただき、見知らぬ住人間の繋がりを深めて下さいました。

その活動へのお礼と記録を残したいと考えて桜木町仮設団地のホームページを作っております。時間がありましたら覗いてみてください。

【検索：桜木町仮設団地 <http://sakuragi-k.com>】

継続的・断続的に元気を頂いたボランティア団体

・板澤先生の体操教室
・日野先生の手芸教室
・アイリーンさんの趣芸教室
・坊茶論(山口県曹洞宗)
・ホープカフェ(チームケア)
・こころホット(立正佼成会)
・“いっぴい”ぽ。
・日本リザルツ
・いわて銀河ネット
吹き出し・音楽・ふれあい・中高吹奏楽部・芸術などなど。
本当に感謝で心がいっぱいです。本当にありがたいことでした。

25

今後の課題は、この自治会活動を幅広い年齢層が、力を合わせて支えていけるかということだと思います。私たちの仮設団地にはサポートセンターがあります。サポートセンターが設置されている仮設団地は釜石市に3カ所しかなく、そのうち1カ所が私たちの仮設団地になります。今まで行ってきた行事には必ずサポートセンターの方々の協力がありました。仮設団地独自の活動や行事をしたいといっても、やはり使用や人員の問題が出てくるわけですが、私たちは恵まれた環境にあると思います。

平成26年度から復興住宅への転居が始まる予定であり、現在の仮設団地の住民はいずれ離れ離れになってしまいます。自治会役員や専門部で活動した住民がいなくなることは、不安要素です。復興が進むことは本当は喜ばしいことですが、一から立ち上げ、みんなで協力・努力してここまでやってきたので、離れることを考

えると寂しい気持ちがいっぱいです。

最後に私たちの仮設団地に対して、継続的に支援をしてくださった方々や、震災後に支援をしてくださった方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。以上で、釜石市桜木町仮設団地自治会の発表を終わります。ありがとうございました。

質疑応答

●司会者 発表の中で自治会の形成というお話がありました。そもそもはお付き合いがなかった、顔を知らない者同士でしたということでしたけれども、この自治会を立ち上げるに当たって、防犯ボランティアという切り口で、その活動が与えた影響や効果は何かございますか。

○回答 発表の中にも入っていますが、まずお互い顔が分からないという状態の中で継続的に活動を行い、そしてお互いに活発に意見を出し合って、そして関係を続けたのが大きな成果ではなかったのかと考えています。